



## 第 19 号

2013年3月25日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局)〒781-8515

高知県高知市池2751-1

高知県立大学 看護学部内

日本看護系学会協議会 事務局

E-mail : jana-jim@ccu-kochi.ac.jp

FAX : 088-847-8750

## 科学研究費助成事業（科研費）と看護学の発展

### — 看護学分科会キーワード等検討の経緯から



弘前大学大学院保健学研究科

西 沢 義 子

平成24年10月8日付けで日本看護系学会協議会の指名理事に就任致しました、弘前大学の西沢でございます。平成24年4月より日本学術振興会学術システム研究センター「医歯薬学専門調査班」の専門研究員を務めており、まもなく1年が経過するところです。本協議会の指名理事を拝命し、もとより浅学非才の身ですが、看護学の発展のために微力ながら努力して参りたいと考えております。

7月上旬に高見沢恵美子理事（学術システム研究センター前専門研究員）から、「科研費キーワードに関しては整理中であるので、是非ともこの作業にご協力願いたい」とのお話をいただいておりますが、この作業が本格的に進んだのは8月に入ってからでした。

平成25年度の科学研究費助成事業（以下、科研費）の看護学分科の細目はこれまでの「地域・老年看護学」が「地域看護学」と「高齢看護学」に分かれ、基礎看護学、臨床看護学、生涯発達看護学、地域看護学、高齢看護学の5細目となっています。これまでの4細目から5細目に増えた背景には、地域看護学への申請課題が継続的に100件以上あったなどの科研費への申請実績に加えて、文部科学省からのパブリックコメントに対して日本看護系学会協議会から意見を提出するなど、学会協議会のこれまでのご尽力、また、関係学会のご協力の賜物と拝察いたします。

平成24年8月という時期は、ちょうど、平成25年度の募集が始まる時期でもあり、限られた時間の中でキーワードの修正が可能かどうか、学術振興会科研費担当者と2度にわたる打ち合わせを行いました。科研費の「分科細目表」は、平成5年度から5年ごとに見直し、10年に一度大幅改正が行われています。平成25年度から適用される「系・分野・分科・細目表」は大幅改正により決定したばかりであり、分科「看護学」だけの修正はかなり無理があるとのことでした。種々検討の結果、「次回の改正は平成27年11月頃から検討予定であり、平成25年度から公募される申請課題の状況を見ながら、平成30年度改正に向けて準備を進めることが望ましい」とのご助言をいただきました。そ

こで、まずは学会協議会の会員学会の皆様のご意見を伺うことを目的に、科学研究費助成事業看護学分科・キーワード等検討会を開催することとなりました。今回の検討会はキーワードの整理を行うための意見聴取であり、次年度からのキーワードに直接反映されるものではありませんでしたが、17学会から18名の参加がありました。

この検討会では、高見沢理事より地域看護学が独立した経緯と今回の会議招集の目的等の説明後、フリーディスカッションが行われました。会員学会の皆様からは、これからのキーワード整理に関する貴重なご意見を賜りました。今後のキーワード整理に向けて効率的に活動が展開されていくことを期待しております。また、ご多忙のなか、学術振興会から3名のご出席をいただき、疑問点については懇切丁寧なご回答をいただきましたことを、深く感謝申し上げます。

学術振興会で担当している科研費の研究種目は特別推進研究、基盤研究、挑戦の萌芽研究、若手研究、研究活動スタート支援、奨励研究などです。厳しい財政状況のなかでも、予算額は比較的順調に推移しています。各大学への運営費交付金が減少する中で、我々の研究を推進していくためには科研費の獲得が重要となります。

科研費の審査は、ピア・レビュー（専門分野の近い研究者による審査）による公正で透明性の高い審査・評価システムとなっています。科研費の制度では、平成23年度から制度改革により「基金化」され、年度の区分にとらわれない研究費の使用など、単年度の補助金制度に比べて柔軟な使用が可能となりました。引き続き「基金化」の改革を進めておりますので、会員学会の皆様には奮ってご応募いただければ幸いです。

学術システム研究センター研究員は科研費の審査には直接関与しませんが、審査委員候補者（書面審査と合議審査）の選考や合議審査の際の幹事候補者の推薦、審査結果の検証等を行っております。科研費の審査は、ピア・レビューにより成り立っており、多くの方々に審査を依頼す

ることになると考えております。審査委員としての依頼がありました際には、ご多忙とは存じますが何卒ご協力をお願い申し上げます。科研費へ応募する場合には計画調書を具体的に作成することは当然のことですが、審査委員となりました際には公平な審査と建設的なご意見の記載につきましてもお願い申し上げます。

看護系大学の急増に伴い、博士後期課程も急増しております。優れた若手研究者が研究に専念できるチャンスを与えるために博士後期課程在籍者および修了者を支援するための特別研究員制度があります。看護学においては他の学

問領域に比較し、まだまだ申請件数が少ないという実態があります。若手研究者を支援していくことも我々の使命であると考えています。また、看護学が他の学問領域と同等なレベルに達するには、さらなる研究活動が必須です。そのためにも科研費による助成を得ながら研究活動をさらに推進して行くことが求められます。重複申請はもちろん、総合系・複合領域や他の分野への申請も可能です。他の学問領域との協働も視野に入れた研究活動がさらに多く展開されることを期待しております。

## 第15回 公開シンポジウム

### 「わが国における高度実践看護師のグランドデザイン」

平成24年12月1日（土）に、東京国際フォーラムにおいて第15回日本看護系学会協議会公開シンポジウムが、「わが国における高度実践看護師のグランドデザイン」のテーマのもとに開催されました。すでに専門看護師・認定看護師の資格制度がある一方で、看護師の特定行為に係る制度が厚労省で検討される中、本テーマは多くの方の関心を集

め、会場では熱いディスカッションが展開されました。以下に各シンポジストの発言要旨を掲載いたします。当日の詳細な内容については、本協議会のHPにアップされておりますので、そちらをご覧ください。

（司会：田中美恵子・高田早苗）

## 高度実践看護師のグランドデザイン （日本看護系学会協議会の立場から）

兵庫県立大学看護学部

内 布 敦 子

（日本看護系学会協議会 高度実践看護師のあり方検討会担当理事）

日本看護系学会の高度実践看護師のあり方検討会は、2011年までに何回か緊急集会を開催し、また調査も行い、2009年以降厚生労働省で検討されてきた特定看護師への意見を取りまとめてきた。調査結果では、現場で行っている医行為がかなりあるということ、医行為に伴うガイドラインの状況がどうなっているか、看護師の医行為の患者アウトカムはどうなっているのか、といったことが明らかになり、多くの専門看護師たちの成果も明らかになった。特定看護師は結果的に名称も使用されなくなり、日本看護系大学協議会や日本看護系学会協議会の高度実践看護師の定義にはまったくあてはまらない内容となったが、当初はキュアを担う高度実践看護師の概念により近づくよう日本看護系学会協議会は、厚生労働省に対して緊急声明（2011年）、厚生労働省へのパブリックコメントの投入（2012年）を行ってきた。その中では少なくとも養成は看護系の教育機関であるべきであり医学部などに設定はしないこと、保助看法に「具体的指示」という言葉は記載しないこと、オールラウンドの技術というのを求めないで専門性を尊重してもらいたいこと、を意見として伝えている。

今後日本看護系学会協議会がすべきことは、①高度実践看護師育成、制度のグランドデザインを現実化する ②専学活動により専門領域の実践にエビデンスを提供する ③関連他職種領域と連携して専門性に深まりと広がりをもたらし ④専門性を判定できる集団として認

定制度の中核となる ⑤アカデミーの立場で政策に参与し、専門性の保証環境を整えるといったことである。

日本看護系学会協議会が2011の調査結果のまとめによると、求められる高度の実践力の要件として、「基盤となる臨床看護の実践能力」、「看護専門分野における医行為を実施できる能力」、「看護専門分野に関わる実践能力」、「医療の質向上に資する実践能力」が挙げられている。同じく日本看護系学会協議会では、看護師による医療行為は看護の広がりの中でやっていくという概念で考えられている。つまり自律した看護の行為は、キュアにかかわる部分が増えてきてもそれを看護の領域の活動として位置づけ、そのような考え方で看護の高度実践看護師を育てるということを目指すべきと考える。

専門看護師の認定制度では、看護協会と日本看護系大学協議会との申し合わせがあり、お互いの協力関係の中で認定を進めている。日本看護系大学協議会は38単位の教育課程の認定制度での認定を2012年に開始した。教育課程の専門性を担保したり、個人の専門性を認定する時、各専門学会の役割は重要である。そういう意味で日本看護系学会協議会の認証、認定への関与は非常に重要になってくる。特に認定の仕組みでは第三者認証機構が当然必要であり、看護系の学会は医学の関連学会の協力を得て、各領域で専門性の内容を明確にし、それを教育課程認定や個人認定に反映していく責任がある。

## 「わが国における高度実践看護師のグランドデザイン」

### — 高度実践看護師を数多く現場に持つ看護部長の立場から —

北里大学病院

看護部長／副院長 別府 千恵

このシンポジウムで私に求められたことは、北里大学病院になぜ専門看護師が多く在籍し、どのように活用しているかであろうと考えた。

北里大学病院になぜ専門看護師が多いかという理由は、北里大学看護学部との連携が密であるということが一番大きい。看護学部からの就職率は卒業生の60～80%であり、卒業生が就職してからも教員のサポートを受けやすい環境にあり、大学院の進学に結びついていること、看護学部と看護部は日常的に連携しており、実習だけでなく共通の会議や事業を通じて結びついていること、さらに、同じ法人で互いの組織に人事異動がスムーズにできる環境があることなどがあげられる。また、専門看護師が身近にいる環境は、スタッフにとって将来の自分のキャリア形成と重なり役割モデルになっていると考えている。

もう一つは、専門看護師を活用するスタッフと管理者の存在である。専門看護師が力を発揮し、スタッフや管理者のケア上の困難さや教育上の問題に伝えてくれたという実績の積み重ねが、専門看護師を活用したほうが患者に良いケアが提供できると確信を生んでいる。これには、病院における専門看護師の最初の一人の影響力が大きく、私たちはこの幸運に恵まれ、スタッフが良いイメージを専門看護師に持つことができ、その後も複数の専門看護師を生み活躍が続いている。この活躍を知っている診療部の期待も大きく、チーム医療の一翼を担っている。

一方、専門看護師が活躍していない、活躍できないとい

う話も散見する。その原因を推察すると活用する看護部や病院が、彼らの活用のイメージを描けていないということがある。しかしそれは、大学院を修了したばかりの専門看護師も同様であり、専門看護師である自分が何をできるかの確信が持てないまま重圧に押しつぶされて、結局認定試験を受けない人も多いと聞いている。私は解決策として大学院の教育の中に、活躍している専門看護師を教員として採用してほしいと考えている。それにより専門看護師の卵たちは、より現実的に専門看護師として活躍する姿を学べるだろう。また、その教員には実践家の能力が衰えないように臨床で実践家として働く時間を担保する、新しい雇用の方法を考える必要があるだろうと考える。

特定看護師（仮称）の事業が進むなか、専門看護師の問題も明らかになりつつある。間接的に複雑な事例にかかわることが多く、専門看護師が独自に出せるアウトカムが少ないことである。私自身も組織の中に専門看護師の部門を置こうとしたが、確実な成果や診療報酬上の評価を提示できず、難航している。また、卓越した実践力が、コンサルテーションや教育の陰で見えにくいという側面もある。

今後、専門看護師の教育課程が拡充する中で、トップマネージャーとしては、より実践力のある専門看護師が排出されることを期待するとともに、臨床側の役割として活用方法の拡大と、活躍している専門看護師たちの成果を見えやすくし、社会や現場にアピールできるようにしていきたいと考えている。

## 海外においてNPの資格を取得している立場から

亀田医療大学学長

クローズ 幸子

（日本看護系大学協議会・高度実践看護師制度推進委員会委員）

過去3年間、日本において、看護師の役割拡大に関する法律の改正の必要性等について、色々な議論が厚生労働省の委員会でもなされてきた。また日本の看護大学を代表する教育機関においても、高度実践看護師の育成を今後どのように推進していくべきかについてのグランドデザインが構想されている。このグランドデザインは、我々が単に看護専門職としての自立性を高め、裁量権を拡大するためのものではなく、看護専門職が医療システムを担う重要なチームの一員として、彼らが受けた専門的教育をフルに活用し、より効果的に国民の健康の保持増進に貢献していくことができるような制度改革を推進していくことを目指している。

日本における高度実践看護師の役割が今後どのように発展していくべきかを抜本的に考察している中で、特に参考にしていきたいのは、米国の高度実践看護師（advanced practice registered nurse-以下APRN）の教育制度と役割範

囲である。米国における高度実践看護師（APRN-Advanced Practice Registered Nurse）のなかで、最近特に注目されている役割が、NP-Nurse practitionerである。

IOM（Institute of Medicine, 2003）によると、国民が納得できる、質の高い医療サービスとは、アクセスが容易で、リーズナブルな、患者を中心とし、かつエビデンスに基づいた医療であると宣言している。ここでいう「医療」とは、多職種から成る包括的なヘルスケアサービスであり、単なる医学中心の治療のみをさしているものではない。一方で、医学の進歩とともに、専門医によるスペシャリティケアが増加するなか、IOMは、国民が自分の症状によって自己判断をして専門医を訪れるのではなく、まずプライマリーケアクリニックを医療システムの門戸として活用し、まずそこにアクセスすることによって、患者は多様な訴えを聞いてもらい、正しい診断を受け、適切な

治療をタイミングよく受けることが出来ることの大切さを示唆している。IOMは国民がプライマリーケアサービスを有効に活用することによって、医療へのアクセスを容易にし、比較的安価でヘルスケアサービスを受けることが出来ると主張している。米国では、医療を提供するシステムの要とされているところがプライマリーケアサービスである。救急、または特別な場合を除いて、国民が医療サービスを受ける最初の拠点は専門医のオフィスではなく、プライマリーケアクリニックであり、健康保険会社はむしろ患者がまずここで受診することを義務付けている。従って、その名は、「患者が医療システムと接する最初の拠点」と言う意味で、「プライマリー」と呼ぶのである。プライマリーケアクリニックでは、数種類のプロヴァイダー（プライマリーケア領域を専門とする医師、NP、そしてPAまたはフィジシャンズアシスタント）が直接患者の診療に関わっている。なかでも、現在その成果が社会から高く評価されている職種がNPである。

NPは、ナースの免許に上乘せして、さらに必要な知識と技術を大学院にて修得し、国家試験終了後、州政府により認証を受け、プライマリーケアサービスを医師と協働で、または単独で提供することが出来る。その役割範囲や裁量権は州によって異なるが、筆者の米国におけるNPの経験から、NPは、看護の視点と医学の視点を融合してサービスを提供するので、プライマリーケアはNPの従来を持ち味を最も効果的に引き出せる場であると確信している。

看護職の専門性の向上と看護学の大学院における教育の発展とともに、大学院において高度な看護教育を受けたNPによる包括的なプライマリーケアサービスは、社会が求めている質の高いプライマリーケアサービスの条件を満たし、その成果が社会から高く評価されるようになった（Hamrick, Spross & Hanson, 2009）。もっとも多くのNPが活躍している職場がプライマリーケアクリニックである。

日本と米国の間では、その文化的要素、特に法律や医療保険制度、医療システム、そして大学院カリキュラム等に大きな違いが見られる。日本では、プライマリーケアを医学の専門領域の選択肢のひとつとする動きは未だ始まったばかりである。とくに最近総合診療や家庭医の診療が如何に人々の健康や命を守るために重要であるか社会に訴える運動がメディアで報道されている。もし米国のNPのような役割を日本で普及するとすれば、日本のヘルスケアシステムの抜本的な改革が必要となり、その中でのNPの位置づけと役割を推進していく必要がある。

米国におけるAPRNの発達を取り巻く社会の変化や、それに伴う医療システム制度の変革等を充分理解することは、わが国が日本独自のAPRN制度をデザインしていき日本バージョンのNPの役割をデザインしていくために欠かせない過程である。こうした準備をしたうえで、「今日、日本の看護専門職にとってどのような制度とシステムの変革が必要なのか」を議論するべきである。

急速な高齢化が進んでいる今日、日本の国民にとって、医療サービスへのアクセスが今後益々問題となっていくことが予報されている。それに備えて、日本の医療システムの抜本的な改革が必要であり、我々医療教育機関は、適切な人材育成のグランドデザインを始めるに当たって、特にプライマリーケアサービスの役割の理解とその発展、そして、そこで働く高度実践看護職、いわば日本バージョンのNPの姿を見出していくために努力していくことが期待される。

#### 参考文献

- IOM. (2003). *Health Professions Education: A Bridge to Quality*. Washington, DC: National Academy Press.
- Hamric, A.B., Spross, J.A., & Hanson, C.M. (2009). *Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach*. St. Louis, Missouri, Saunders-Elsevier

## 日本学術会議の立場から

慶應義塾大学

小松 浩子

(日本学術会議連携会員)

日本学術会議看護学分会では、21期（看護学分会委員長 南裕子 日本学術会議会員）に、“高度実践看護師制度の確立に向けてグローバルスタンダードからの提言”（2011年9月29日）を提出している。本提言の背景や意図、骨子について説明し、それらに基づき、私論も交え、わが国における高度実践看護師のグランドデザインに不可欠な要素と課題について述べる。

日本学術会議は「科学が文化国家の基礎であるという確信の下に、行政や産業および国民生活に科学を反映する、浸透させる」ことを目的に、我が国の全分野の科学者（約84万人の）を内外に代表し組織された機関である。日本学術会議の役割は、主にⅠ政府に対する政策提言、Ⅱ国際的な活動、Ⅲ科学者間ネットワークの構築、Ⅳ科学の役割についての世論啓発である。

看護学分会では、我が国の健康課題に対し、「看護は

何に貢献できるか」についてこれまでに提言を行ってきた。本提言は、安全と安心の医療に対する国民からの強い要請に対し、高度実践看護師による役割拡大が喫緊の課題と考え、将来を見据えた高度実践看護師のグランドデザインとして社会むけて提案したものである。

具体的には、グローバルスタンダードの視点から、我が国における高度実践看護師が具備すべき能力や標準的な教育、医師との協働関係、医療サービスを保証するための教育制度について検討を行った。

提言の内容は次の3つに集約できる。まず、グローバルスタンダードを念頭に置いた高度実践看護師の制度創設の重要性についてである。特に、高度実践看護師の運用に当たっては定義、能力を明確にして、関係団体、更には国民からの実践範囲（scope of practice）に関する合意を得る必要がある。高度実践看護師というのは、免許を有している

こと、看護系の大学院において、理論の統合を目指す修士課程以上の教育を受けていること、というふうな要件を備え、「個人、家族、及び集団に対して、ケアとキュアの融合による高度な看護学の知識、技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践することができる看護師」と定義した。

高度実践看護師は特定の専門領域において、自律してケアとキュアを融合できる能力をもつ看護師であり、次の2つのタイプが考えられた。1つは病院や在宅など医療現場において卓越した能力を発揮するクリニカル・ナーススペシャリスト。もう1つは、病院、診療所、あるいは地域医療連携の下に開設する看護クリニックにおいて、医師との協力関係の下、自律的に医療ケアを、先ほど出てきたような医療の部分を重点的に負うというナース・プラクティショナーとしての役割である。今は専門看護師が高度実践の看護師として活躍しているが、創設当時から“Certified Nurse Specialist”とし、今後どういうふうに進展できるかということのを考慮に入れたかたちで生まれてきた。今、社会的な要請を受けて、高度実践看護師の発展の方向性は、この2つ役割を拡大していくことと考える。

2つ目は、高度実践看護師のコンピテンシーの検討である。本提言では、グローバルスタンダードの観点から、世界標準のコンピテンシーを集約し、資料としている。高度実践看護師のコンピテンシーは、すでに、看護系学会協議会(JANA)において、さまざまな学会の意見を集約してまとめている。また、既に専門看護師の教育が始まっている、それぞれの教育の専門分野の中で行われているものを、どういうふうコンピテンシーとして考えて再定義していくのかということを検討する必要があるかと思っている。

3つ目は、今後の将来に向かっての社会的要請に応えるべく高度実践看護師の認定の仕組みをどう考えていくのかについてである。日本看護系大学協議会は、これまで高度実践看護師教育についてのさまざまな認定システム、教育基準をもちながら進んでいる。今後、2つのタイプの高度実践看護師の養成を考えるならば、高度実践看護師の定義に基づいて教育認定制度を再検討する必要がある。専門看護師の認定は、現在、日本看護協会が執り行っているが、今後、さまざまスペシャリティをもった高度実践看護師を、日本看護協会、日本看護系学会協議会、日本看護系大学協議会が、定義やコンピテンシーの共通認識のもとに、各組織と連携して、第三者機関として、認定制度を強固なものにして進めることができるよう、早急な話し合いが必要と考える。

以上が、日本学術会議看護学分科会の提言のまとめである。

「わが国における高度実践看護師のグランドデザイン」を検討する上で、さらに次のような論議が必要である。医療行為の規制緩和による各医療専門職の高い専門性を生かしたチーム医療の推進が話題になっている。高度実践看護師が専門性の範囲による特定の患者集団に対して自律的に診断し、医療を提供するという事は、今、実際に専門看護師の役割等々の中でも求められているし、在宅の医療の中でも求められている。そこに対して、どのように医療的な判断や治療が可能な高度実践看護師や専門看護師の役割拡大を実現していくか、ということを考えていく必要がある。

厚労省のチーム医療推進会議の中で数年にわたり論議されている部分に関しては、今のところ高度実践看護師という考え方の土台に、その論議が進んでいるわけではない。ある医療的な判断、治療ということをして社会が望んでいるという、身近な看護師がやることを社会が望んでいるという論理の下に、そのことが今の保助看法上でどういうふうに進めるのかという論理で進んでいる。ベースが高度実践看護師の役割やあり方等で進むということが難しい状況である。すなわち、医療行為の規制緩和に関する論議というのは、高度実践看護師の論議の中ではなくて、診療の補助行為の拡大という一方向のベクトルだけで進んでいる。これをどう考えるかといったことも併せて高度実践看護のあり方全体を考えていく必要がある。

そのためには、例えば、先ほど出した1つの提案として、日本学術会議が提案しているナース・プラクティショナーという人たちが、より医療行為に対して責任を持って自律して看護師としていち早く、自律的な診断に基づいた医行為をすることで、ケアと融合して患者さんたちの満足やさまざまなQOLを得るといことにとり、医師法の解除が必要ならば、その部分を大きくこれからのいろんな組織団体の中で、アプローチをしていくということも必要と思う。

私も看護業務検討ワーキングにも参加しているがなかなかそこが難しく、保助看法の中で、何とか診療の補助という中で、特定の医療行為を私たちが責任をもって拡大をしていくことを論議しても、やはり法的な解釈の中で、常に医師の指示の下にということがあるので、日本の高度実践看護師の役割拡大、特に医療行為というところに、私たちが責任をもって拡大をしていくことにつながりにくい。そこが非常に難しく、やっぱり私たちは法的な部分もかなりきちんと論破しなければならない。

高度実践看護師が役割拡大をしていくときには、必ず保健医療のシステムからの要請、社会的な要請がある。私たちは保健医療システムの中で何ができて、何を望まれているのかといったことを再度考えて、社会にきちんと表していく必要がある。ケアとキュアの融合というかたちでの高度看護実践は、我が国の中で培い、見いだしてきたものである。そこをどういうふう根付かせて、制度化やさまざまな法的なところとのすり合わせを行っていくかについて考えることを肝に銘ずる必要がある。

APRNとしてのRegulatory Modelということ、これはアメリカが先陣を切って、きちんと整理をされたということ、複雑高度化する医療の中で、看護が何に責任を持ち、どういうふうな責任のあり方をしているのかということが、非常に分かりやすく表されているモデルである。こういうものを基盤にしながら、論議しながら、私たちは、では一体、社会的な要請や専門分化というもの、さまざまな背景、これまで培ってきた教育のあり方やさまざまな法的なものとか、あるいは文化とかも含めて、対象集団の中でケアとキュアをどういうふう融合していくかという専門分野の1つの考え方について、コンセンサスを得ていくということが、今、とても必要と考える。

日本学術会議看護学分科会の今後の取り組みとして、「看護をどういうふう学問体系として考えていくのか」

について、ケアサイエンスを基盤に検討を進めている。そういったことを基盤にしながら、我が国の高度実践看護師の役割や機能を再検討するといったこともできる。そういった論議に基づきながら、具体的にAPRNの我が国のモデルとしてのさまざまな仕組み、連携、組織化の提案をしていく必要があるのではないかと思う。

最後に、財源の検討を忘れてはならない。今グランドデザインを描くときに財源抜きにはできないだろう。それを看護界として、どういうふうにか考えるのかといったこと、それから、それを政府にどういうふうに分かってもらっ

てお金をゲットしていくのかといったことも必要と考える。あとは、社会のコンセンサスに向けての発信ということで、こういったところにもマスメディアは来ていただいて、私たちはどう考えているかといったことをやっただいのかと考え、できるだけ分かりやすい言葉で高度実践看護のことを伝えていく必要がある。さらに、このグランドデザインを考えていくときには、アウトカムとそのプロセスも含めて、そういった評価をしていくというところの部分にeffortとお金をどれだけ付けていくかといったことも、今の時点から考えて進んでいく必要がある。

### 【平成25年度 日本看護系学会協議会総会のご案内】

日 時：平成25年6月17日（月）13時～

場 所：日本赤十字看護大学広尾キャンパス（東京都渋谷区広尾4-1-3）

アクセス：JR 渋谷駅より都バス（学03）日本赤十字医療センター行 終点下車

JR 恵比寿駅より都バス（学06）日本赤十字医療センター行 終点下車

東京メトロ日比谷線広尾駅 六本木寄り口下車徒歩15分

◎会員学会のご参加よろしくお願いたします。

### 日本看護系学会協議会会員名簿（平成25年2月27日現在）

| 会 員 名            | 会 員 名               |
|------------------|---------------------|
| ・ 高知女子大学看護学会     | ・ 日本小児看護学会          |
| ・ 聖路加看護学会        | ・ 日本助産学会            |
| ・ 千葉看護学会         | ・ 日本新生児看護学会         |
| ・ 日本家族看護学会       | ・ 日本腎不全看護学会         |
| ・ 日本看護科学学会       | ・ 日本生殖看護学会          |
| ・ 日本看護学教育学会      | ・ 日本精神保健看護学会        |
| ・ 日本看護管理学会       | ・ 日本赤十字看護学会         |
| ・ 日本看護技術学会       | ・ 日本地域看護学会          |
| ・ 日本看護教育学学会      | ・ 日本糖尿病教育・看護学会      |
| ・ 日本看護研究学会       | ・ 日本難病看護学会          |
| ・ 日本看護診断学会       | ・ 日本母性看護学会          |
| ・ 日本看護福祉学会       | ・ 日本慢性看護学会          |
| ・ 日本看護歴史学会       | ・ 日本ルーラルナース学会       |
| ・ 日本がん看護学会       | ・ 日本老年看護学会          |
| ・ 日本救急看護学会       | ・ 日本看護医療学会          |
| ・ 日本クリティカルケア看護学会 | ・ 日本看護倫理学会          |
| ・ 日本災害看護学会       | ・ 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 |
| ・ 日本在宅ケア学会       | ・ 日本アディクション看護学会     |
| ・ 日本手術看護学会       | ・ 日本母子看護学会          |
| ・ 日本循環器看護学会      |                     |

### 【役 員】

会 長

野 嶋 佐由美

副会長

高 田 早 苗（庶 務）

田 中 美恵子（広報・災害支援事業）

理 事

麻 原 きよみ（企画・災害支援事業）

内 布 敦 子（高度実践看護師制度あり方検討会）

太 田 喜久子

（日本学術会議・高度実践看護師制度あり方検討会）

数 間 恵 子（監 事）

片 田 範 子（高度実践看護師制度あり方検討会）

黒 田 裕 子（会計・企画）

田 井 雅 子（庶務・ナースサイエンスカフェ）

高見沢 恵美子（会計・日本学術振興会）

西 沢 義 子（日本学術振興会）

菱 沼 典 子（日本医療安全調査機構）

南 裕 子（監事・災害支援事業）

村 嶋 幸 代（広 報）

### 日本看護系学会協議会 新会員学会のご紹介

平成24年12月1日の第5回JANA役員会におきまして、日本母子看護学会の入会が承認されました。日本母子看護学会の入会で、JANAの会員学会は39学会となりました。今後とも会員学会の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本看護系学会協議会 事務局

### 一編集後記一

本号では、科研費審査のキーワード検討について紹介された文章と、昨年12月の日本看護科学学会時に開催されたシンポジウムの様子を掲載しました。

チーム医療推進会議は、大詰めに入っています。この検討会では、ともすれば、「医行為」に目が行きがちですが、医行為の背景には、「病態を理解し、的確にフィジカルアセスメントでき、薬理作用にも詳しい」看護師が想定し得ます。歴史の中で先を見通し、理想を立ててそれに向かって前進していく必要があると思います。看護師の学識がより深まり、活用できる方法論が格段に増えることにより、看護学も大きく、豊かに育っていくことが期待されます。

本ニュースが、その一助になることを願っています。

（村嶋幸代）

| 学 会 名             | 理事長    | 郵便番号     | 学 会 連 絡 先  |                |                |   | 宛先(担当者)        | ホームページアドレス                                     |
|-------------------|--------|----------|--|----------------|----------------|---|----------------|--|
|                   |        |          | 学会連絡先住所  | 学会 TEL         | 学会 FAX         | 学会 E-mail                                     |                |  |
| 1 高知女子大学看護学会      | 野嶋 佑由美 | 781-8515 | 高知県高知市池2751-1 高知県立大学看護学部内                                    | (088)-847-5524 | (088)-847-5524 | kawakami@cc.u-kochi.ac.jp                     | 川上 理子          | http://www.kochi-wu.ac.jp/~nsgakkai/index.html |
| 2 聖路加看護学会         | 山田 雅子  | 104-0044 | 東京都中央区明石町10-1  | (03)-3543-6391 | (03)-5565-1626 | slnr@slcn.ac.jp                               | 山田 雅子          | http://sinr.umin.jp/                           |
| 3 千葉看護学会          | 酒井 郁子  | 260-8672 | 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部内                                   | (043)-226-2421 | (043)-226-2421 | cans-adm@umin.ac.jp                           | 谷本真理子          | http://cans.umin.jp/                           |
| 4 日本家族看護学会        | 石垣 和子  | 929-1210 | 石川県かほく市学園台1-1 石川県立看護大学内                                      | (076)-281-8374 | (076)-281-8374 | family_chiba_u_2007@yahoo.co.jp               | 石垣 和子          | http://square.umin.ac.jp/jarfn/                |
| 5 日本看護科学学会        | 小松 浩子  | 113-0033 | 東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201                                      | (03)-5805-1280 | (03)-5805-1281 | jans-office@umin.net                          | 小松 浩子          | http://jans.umin.ac.jp/                        |
| 6 日本看護学教育学会       | 小山真理子  | 105-0012 | 東京都港区芝大門2-12-6 芝ハタビル402                                      | (03)-5472-7455 | (03)-5472-7465 | jimukyoku@jane-ns.org                         | 小山真理子          | http://www.jane-ns.org                         |
| 7 日本看護管理学会        | 鶴田 恵子  | 150-0012 | 東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内 日本看護管理学会事務局                         | (03)-3409-1290 | (03)-3409-1290 | janap@redcross.ac.jp                          | 鶴田 恵子          | http://janap.umin.ac.jp                        |
| 8 日本看護技術学会        | 菱沼 典子  | 104-0044 | 東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学大久保研究室気付 日本看護技術学会事務局                    | (03)-5550-2253 | (03)-5550-2253 | jsnas@slcn.ac.jp                              | 菱沼 典子          | http://www.jsnas.jp/                           |
| 9 日本看護教育学会        | 永野 光子  | 260-8672 | 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科看護教育学教育研究分野気付                  | (043)-226-2397 | (043)-226-2397 | jasne-office@umin.ac.jp                       | 中山登志子          | http://jasne.umin.jp                           |
| 10 日本看護研究学会       | 黒田 裕子  | 260-0015 | 千葉県千葉市中央区富士見2丁目22番6号富士ビル6階                                   | (043)-221-2331 | (043)-221-2332 | jsnr@bridge.ocn.ne.jp                         | 黒田 裕子          | http://www.jsnr.jp                             |
| 11 日本看護診断学会       | 小田 正枝  | 160-0022 | 東京都新宿区新宿1-15-11イマキイレビル (株)グローバルエクスプレス・国際会議センター内              | (03)-3352-6223 | (03)-3352-5421 | jsnd@convention-access.com                    | 任 和子           | http://jsnd.umin.jp/                           |
| 12 日本看護福祉学会       | 岡崎美智子  | 810-0072 | 福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 国際医療福祉大学福岡看護学部天神キャンパス内                      | (092)-739-4358 | (092)-739-4343 | okazaki-m@iuhw.ac.jp                          | 岡崎美智子          | http://kangofukushi.sakura.ne.jp/              |
| 13 日本看護歴史学会       | 川嶋みどり  | 150-0012 | 東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内                                     | (03)-3409-0613 | (03)-3409-0589 | yamazaki@redcross.ac.jp                       | 山崎 裕二          | http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/                |
| 14 日本がん看護学会       | 鈴木志津枝  | 204-8575 | 東京都清瀬市梅園1-2-1 国立看護大学校日本がん看護学会 飯野京子                           | (042)-495-2354 | (042)-495-2639 | iinok@adm.ncn.ac.jp                           | 飯野 京子          | http://jscn.umin.jp                            |
| 15 日本救急看護学会       | 中村 恵子  | 164-0001 | 東京都中野区中野2-2-3 (株)へるす出版事業部内                                   | (03)-3384-8030 | (03)-3380-8627 | jaen@herusu-shuppan.co.jp;jaen-adm@umin.ac.jp | 中村 恵子          | http://jaen.umin.jp                            |
| 16 日本クリティカルケア看護学会 | 黒田 裕子  | 252-0329 | 神奈川県相模原市南区北里2-1-1 北里大学大学院看護学研究科クリティカルケア看護学日本クリティカルケア看護学会事務局  | (042)-778-9069 | (042)-778-9069 | jaccn-office@umin.ac.jp                       | 林 みよ子          | http://jaccn.umin.jp/                          |
| 17 日本災害看護学会       | 南 裕子   | 781-8515 | 高知県高知市池2751-1 高知県立大学看護学部内                                    | (088)-847-8705 | (088)-847-8705 | jsdn@univcoop.or.jp                           | 森下 安子          | http://www.jsdn.gr.jp/                         |
| 18 日本在宅ケア学会       | 亀井 智子  | 162-0825 | 東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F (株)ワールドプランニング内 日本在宅看護学会事務センター         | (03)-5206-7431 | (03)-5206-7757 | world@med.email.ne.jp                         | 亀井 智子          | http://www.jahhc.com/                          |
| 19 日本手術看護学会       | 菊地 京子  | 113-0033 | 東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F                                      | (03)-3813-0485 | (03)-3813-0539 | jona@yacht.ocn.ne.jp                          | 星 正行           | http://www.jona.gr.jp/index.shtml              |
| 20 日本循環器看護学会      | 吉田 俊子  | 981-3298 | 宮城県黒川郡大和町学苑1番1 宮城大学看護学部吉田研究室内 日本循環器看護学会事務局 淡路理智子             | (022)-377-8242 | (022)-377-8242 | yosidats@myu.ac.jp                            | 淡路理智子          | http://www.jacn.jp/                            |
| 21 日本小児看護学会       | 及川 郁子  | 166-8532 | 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本小児看護学会事務局                    | (03)-5307-1175 | (03)-5307-1196 | jschn@univcoop.or.jp                          | 及川 郁子          | http://jschn.umin.ac.jp/                       |
| 22 日本助産学会         | 江藤 宏美  | 170-0004 | 東京都豊島区北大塚3-21-10アーバン大塚3階 (株)ガリレオ学会業務情報化センター内 一般社団法人日本助産学会事務局 | (03)-5974-5310 | (03)-5907-6364 | g019jam-mng@mlgakkai.ne.jp                    | 北川真理子          | http://square.umin.ac.jp/jam/                  |
| 23 日本新生児看護学会      | 宇藤 裕子  | 594-1101 | 大阪府和泉市室堂町840 大阪府立母子保健総合医療センター看護部内 日本新生児看護学会事務局               | (0725)-56-3750 | (0725)-56-3750 | neonatal@mch.pref.osaka.jp                    | 宇藤 裕子          | http://square.umin.ac.jp/~shinseij/            |
| 24 日本腎不全看護学会      | 水附 裕子  | 231-0005 | 神奈川県横浜市中区本町6-52横浜エクスレントⅦ305 日本腎不全看護学会事務局                     | (045)-226-3091 | (045)-226-3092 | a-uchida@sis.seirei.or.jp                     | 内田 明子          | http://ja-nn.jp/                               |
| 25 日本生殖看護学会       | 野澤美江子  | 104-0044 | 東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内 日本生殖看護学会事務局                           | (03)-5550-2293 | (03)-5550-2293 | jsin@slcn.ac.jp                               | 三 上            | http://jsin.umin.jp                            |
| 26 日本精神保健看護学会     | 野末 聖香  | 162-0801 | 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター                                     | (03)-5389-6254 | (03)-3368-2822 | japmhn-post@bunken.co.jp                      | 木 崎            | http://www.japmhn.jp/                          |
| 27 日本赤十字看護学会      | 守田美奈子  | 150-0012 | 東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内                                     | (03)-5485-5777 | (03)-5485-5777 | jrcsns@redcross.ac.jp                         | 川嶋みどり          | http://jrcsns.umin.ne.jp/                      |
| 28 日本地域看護学会       | 村嶋 幸代  | 162-0825 | 東京都新宿区神楽坂4-1-1 (株)ワールドプランニング内 日本地域看護学会事務センター                 | (03)-5206-7431 | (03)-5206-7757 | ckango@zfhv.ftbb.net                          | 村嶋 幸代          | http://jachn.umin.jp/                          |
| 29 日本糖尿病教育・看護学会   | 数間 恵子  | 170-0004 | 東京都豊島区北大塚3-21-10アーバン大塚3F (株)ガリレオ学会業務情報化センター内 日本糖尿病教育・看護学会事務局 | (03)-5907-3750 | (03)-5907-6364 | g015jaden-mng@mlgakkai.ne.jp                  | 数間 恵子          | http://jaden1996.com/                          |
| 30 日本難病看護学会       | 牛込三和子  | 156-8506 | 東京都世田谷区北上北沢2-1-6 東京都医学総合研究所難病ケア看護研究室                         | (03)-6834-2290 | (03)-6834-2290 | ns-nanbyo-ken07@igakuken.or.jp                | 牛込三和子          | http://square.umin.ac.jp/intra/                |
| 31 日本母性看護学会       | 森 恵美   | 260-8672 | 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科母性看護学教育研究分野内                   | (043)-226-2412 | (043)-226-2414 | jsmn.office@gmail.com                         | 坂上 明子<br>小澤 治美 | http://www.mcn.ac.jp/bosei/                    |

日本看護系学会協議会会員学会

2013年2月27日現在

| 学 会 名                | 理事長   | 学 会 連 絡 先 |   |                |                |                           |                | ホームページアドレス                                  |
|----------------------|-------|-----------|---|----------------|----------------|---------------------------|----------------|---|
|                      |       | 郵便番号      | 学会連絡先住所   | 学会 TEL         | 学会 FAX         | 学会 E-mail                 | 宛先(担当者)        |   |
| 32 日本慢性看護学会          | 河口てる子 | 150-0012  | 東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内 日本慢性看護学会事務局                            | (03)-3409-0589 | (03)-3409-0589 | jscicn-office@umin.ac.jp  | 本庄 恵子          | http://jscicn.com/                          |
| 33 日本ルーラルナース学会       | 成田 伸  | 329-0498  | 栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内                                   | (0285)-58-7504 | (0285)-44-7257 | support@jasrun.org        | 中村 美鈴          | http://www.jasrun.org/                      |
| 34 日本老年看護学会          | 太田喜久子 | 162-0825  | 東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F (株)ワールドプランニング内 日本老年看護学会事務センター            | (03)-5206-7431 | (03)-5206-7757 | rounenkango@nqfm.ftbb.net | 太田喜久子          | http://www.rounenkango.com/                 |
| 35 日本看護医療学会          | 渡邊 順子 | 433-8558  | 静岡県浜松市北区三方原町3453 聖隷クリストファー大学看護学部内 日本看護医療学会事務局                   | (053)-439-1400 | (053)-439-1406 | jsnhc-jimu@seirei.ac.jp   | 炭谷正太郎          | http://www.jsnhc.org/leftpages/ask/ask.html |
| 36 日本看護倫理学会          | 高田 早苗 | 150-0012  | 東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護学会内  | (03)3409-0864  | (03)3409-0589  | jnea-office@umin.net      | 前田 樹海<br>谷口 千絵 | http://jne.umin.jp/                         |
| 37 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 | 真田 弘美 | 169-0072  | 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル (株)春恒社学会事業部内 日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局 | (03)-5291-6231 | (03)-5291-2176 | etwoc@shunkosha.com       | 真田 弘美          | http://www.etwoc.org/                       |
| 38 日本アディクション看護学会     | 松下 年子 | 350-1241  | 埼玉県日高市山根1397-1 埼玉医科大学保健医療学部看護学科丸山昭子研究室内 日本アディクション看護学会事務局        | (042)-984-4925 | (042)-984-4922 | jssan@saitama-med.ac.jp   | 日下 修一          | http://plaza.umin.ac.jp/~jaddictn/          |
| 39 日本母子看護学会          | 齋藤 益子 | 143-0015  | 東京都大田区大森西4-16-20  | (03)-3762-9881 | (03)-3766-3914 | jmica2@gmail.com          | 山崎 圭子          | http://jmica.kenkyuukai.jp/about/           |